

今を生きる社会人たちは、キャリアという大きな海を
どんな船に乗って航海しているのだろう。
港に立ち寄るさまざまな社会人たちの船=仕事から、
これからの仕事・働き方へのヒントを探ります。



vol.2

幼少期からの憧れを胸に、 航空業界へ転職



ANA関西空港 グランドサービス部 **雑賀智子**

1990年鳥取県生まれ。大学卒業後、中学高校の保健体育教師と小学2年生の担任を経験。27歳の時に「人生一度きり」と、航空業界へチャレンジ。
ANA関西空港に入社し、グランドハンドリング担当の部署に配属され、現在9年目。趣味はカフェ巡りとプロ野球観戦。

取材・文／今井夕華 撮影／竹内弘真

雑賀智子さんのお仕事 グランドハンドリング

① 一番のやりがい

特殊車両を操って、大きな飛行機をハンドリングすること。海外のパイロットと英語でやりとりすること。

② 一番大変なこと

国内線だと35～50分、国際線でも60分ほどの短時間で、安全かつ素早く作業しなければいけないこと。

③ こんな人におすすめ

旅行が好き。語学を活かした仕事に就きたい人。

小中高の教員を4年経験し
人生は一度きり！と転職

飛行機に乗ったとき、地上からパイパイと手を振ってくれているヘルメット姿の人を見かけたことはないだろうか。それが、グランドハンドリング（グラハン）スタッフ。飛行機の誘導をはじめ、荷物の積み下ろしなど、地上で飛行機をサポートして安全に送り出すのが、ANA関西空港で働く雑賀さんの仕事だ。

「小学校のころ見たドラマで、飛行機の裏方に興味をもちました。特に、グラハン業務の一つで飛行機を誘導する仕事『マーシャラー』に憧れたんです。でも、両親共に小学校で働く教師一家だったので、公務員として安定するイメージの方が強くて。大学卒業後は、教師として4年間勤務していました」



荷物の積み下ろしは、「ハイリフトローダー」と呼ばれる特殊車両を操作して、地上10mほどの高さで行われる。

高校と中学では保健体育を教え、最終年には小学校の担任も経験した。

「教師もやりがいがあったのですが、航空業界への思いがどうしても捨てきれず『人生一度きりだし！』と転職することに。両親は、教員の大変さも幼少期からの憧れも知っていたので、一緒に喜んでくれました」

大胆さと繊細さが問われる グランドハンドリング業務

入社後は実地訓練を重ね、業務に必要なさまざまな資格を取得していく。グラハンのベースとなる資格をひと通り取るのに3年くらいはかかるそう。

「憧れていた『マーシャラー』の資格は、入社2カ月でチャレンジさせてもらえました。だけどやってみると奥が深い。出す合図は

決まっていますが、その飛行機が入ってくるスピードや、位置によってタイミングが変わってきます。その便ごとの条件に合わせて、細かく調整しています」

グラハンの勝負所は、飛行機が空港に到着してから出発するまでの間。国内線で35～50分、国際線でも60分ほどと短い時間のなかで、安全かつスピーディーに作業を完了させないといけない。飛行機のサイズや荷物の量、天候によっても進め方が変わり、突如発生するイレギュラーにも柔軟に対応していく。

「修学旅行生がいる日は手荷物の数が増えるので、先回りして計画しているんですよ。機側（きそく）作業の責任者『ロードマスター』を任せられたときは、仲間に指示を出したり、他部署に無線を飛ばしたり。『便全体を私が動かしているんだ



雑賀さんの平均歩数はなんと1万3000歩。グラハンには、体力と頭脳どちらも駆使して仕事を進めることが大切。

な」と実感できて、無事に送り出せたときは達成感があります」

別の仕事をしていたことは キャリアの遠回りではない

教員から転職した雑賀さんは、先生というあだ名で親しまれている。近年は後輩の指導も担当するように。

「声かけの仕方は、教員の経験が活きていますし、部活動をやってきたことも、挨拶を大切にすることや、体力づくりにつながっています。決して別の仕事をしたことが遠回りだとは思いません。ひと言に航空業界といっても、職種はさまざまですし、同じ制服を着ていても違う会社だったりする。人生は一度きりです。興味があれば、その仕事についてぜひじっくり調べて、挑戦してみてください！」



パイパイと手を振って飛行機を安全に送り出せたときはホッとする瞬間。手を振り返してもらえると嬉しい。